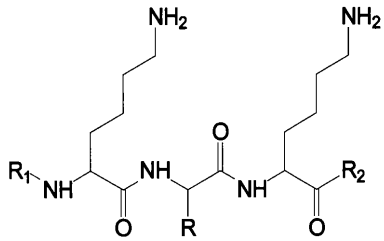
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成25年1月24日(2013.1.24)

【公表番号】特表2012-515196(P2012-515196A)
【公表日】平成24年7月5日(2012.7.5)
【年通号数】公開・登録公報2012-026
【出願番号】特願2011-545827(P2011-545827)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　8/64　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　8/64
Ａ６１Ｑ　19/00

【手続補正書】
【提出日】平成24年11月30日(2012.11.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
以下の式Ｉのペプチドであって、
【化Ｉ】



Ｒは、－（ＣＨ$_2$）$_n$－ＳＲ$_3$の側鎖であって、ｎ＝０乃至５及びＲ$_3$＝Ｈまたは炭素数１乃至５のアルキル鎖であり、かつ該側鎖Ｒの硫黄原子は酸化されており、
Ｒ$_1$はＨ、アシル基、またはスルホニル基であって、前記アシル基またはスルホニル基は、ビオチノイル基、または、炭素原子数１乃至２４のアルキル鎖、アリール鎖、アラルキル鎖、糖鎖若しくはアルコキシ鎖を有する基から選ばれたアシル基またはスルホニル基であって、前記鎖は、直鎖状、分枝鎖状または環状であり、飽和または不飽和であり、ヒドロキシまたは非ヒドロキシであり、含硫または非含硫であり、
Ｒ$_2$はＯＨ、－Ｏ－Ｒ$_7$基、または－ＮＲ$_8$Ｒ$_9$基であって、Ｒ$_7$、Ｒ$_8$及びＲ$_9$は互いに独立して、水素、または、炭素原子数１乃至２４のアルキル鎖、アリール鎖、アラルキル鎖、アシル鎖、スルホニル鎖、糖鎖またはアルコキシ鎖であり、前記鎖は、直鎖状、分枝鎖状または環状であり、飽和または不飽和であり、ヒドロキシまたは非ヒドロキシであり、含硫または非含硫であるペプチド。
【請求項２】
側鎖Ｒの硫黄原子が二酸化されている（ＳＯ$_2$）請求項１に記載のペプチド。
【請求項３】
Ｒ$_1$－ＫＭＯ$_2$Ｋ－Ｒ$_2$の式を有し、ＭＯ$_2$が二酸化したメチオニンである請求項１または２に記載のペプチド。

【請求項４】
Ｐａｌ－ＫＭＯ$_2$Ｋ－ＯＨの式を有し、メチオニンに二酸化硫黄（スルホン）が含まれ、Ｒ$_1$がパルミトイルで、Ｒ$_2$がＯＨである請求項３に記載のペプチド。
【請求項５】
請求項１乃至４のいずれか１つに記載のペプチドと、生理学的に許容できる媒体とを含む組成物。
【請求項６】
ヒメマツバボタンの植物エキスをさらに含む請求項５に記載の組成物。
【請求項７】
組成物全体の重量に対するペプチドの濃度が０．００００１％乃至１５％である請求項５または６に記載の組成物。
【請求項８】
組成物全体の重量に対するペプチドの濃度が０．００１％乃至５％である請求項７に記載の組成物。
【請求項９】
美白剤、赤み抑制剤、日焼け止め及び有機質または無機質のＵＶフィルター、水分補給剤、保湿効果剤、湿潤効果剤、角質除去剤、抗しわ剤、アンチエイジング、スリミング剤、にきび用剤、抗炎症剤、抗酸化剤、ラジカル捕捉剤、セルフタンニング、脱毛剤または剃毛用剤、発毛抑制剤、肌引き締め剤、ペプチド及びビタミンから選ばれた少なくとも１つのさらなる補足的な有効成分がさらに配合された請求項５乃至８のいずれか１つに記載の組成物。
【請求項１０】
請求項１乃至４のいずれか１つに記載のペプチドまたは請求項５乃至８のいずれか１つに記載の組成物の使用方法であって、皮膚及び皮膚付属器の総合的な状態を改善するための美容処置に前記ペプチドまたは前記組成物を用いる使用方法。
【請求項１１】
内因性及び外因性の皮膚老化兆候の、しわ、小じわ、肌理の不均質さ及び肌荒れ、皮膚の弛み、色素斑及び／または顔色のくすみを予防及び／または処置する請求項１０に記載の使用方法。
【請求項１２】
皮膚の力学特性である、皮膚の張り及び／または引き締まり及び／または弾力を改善する請求項１０または１１に記載の使用方法。
【請求項１３】
真皮及び表皮の密度を向上し、真皮及び表皮にボリュームを与えるまたは取り戻す請求項１０乃至１２のいずれか１つに記載の使用方法。
【請求項１４】
皮膚の乾燥を予防及び／または処置する請求項１０乃至１３のいずれか１つに記載の使用方法。